

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 盛光 秀之

所属: 川崎市総合教育センター 塚越相談室

記録日: 2018年2月10日

キーワード: 読み書き 注意欠陥 感覚過敏

【対象児の情報】

・学年 6年

・障害名

読み書き障がい (ディスレクシア, ディスグラフィア)

病弱

その他 (聴覚過敏あり)

4年生の夏明けから原因不明の副腎皮質ホルモン低下が起こり、微熱が下がらず学校を早退することが増えた経験がある。現在病状は比較的安定しているが定期的に通院している。6年生になってからは、ほぼ出席できている。

塚越相談室へ相談申し込みの主訴

中学校に向けて学習面で不安である。本人が少しでも学習できるように母親として何ができるか考えたい。

相談申し込みは2017年1月24日、インテークは同年2月8日

・障害と困難の内容

○学習面

①読みの困難さ: 漢字を読むことや、どこで区切るのかがわからなくなる。文字を音にする速度が遅く、読んだ後に自分でも理解ができなく、問題を解くのをあきらめてしまう。

②書きの困難さ: ノートテイクすることはできるが、字形が整わず意味を理解しながら写したり、考えたりすることが難しい。作文は苦手である。

○生活面

授業に必要な道具を忘れてしまう。

スケジュールを忘れてしまう。。

【活動目的】

・当初のねらい

読み書きのアセスメントを取り、ICTを利用した本人に適した学習方法を提案することによって「できる」「わかる」体験を積み重ね学習意欲を取り戻す。

①読み書きのアセスメントを取る。

②認知特性に応じた iPad アプリのフィッティングを行う。

③認知特性に応じた ICT 機器の導入により、適切な合理的配慮を受ける。

④自己肯定感を高め学習意欲を取り戻す。

⑤進級に向けて中学校のコーディネーターとの引継ぎを行う。

・実施期間: 平成29年4月～平成30年2月

・実施者: 盛光秀之 佐藤理絵

・実施者と対象児の関係: 相談担当者 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・対象児の事前の状況

(母親からの聞き取りと願い)

●今までの経緯

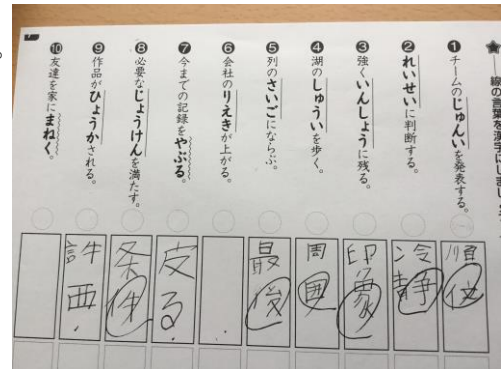
- ・本人は努力しているが、中々学習が定着しない。
- ・病院、療育センター、児童相談所など様々な機関で相談したが本人の困り感は解消できなかった。

●本人の良い点

- ・友人関係は良好である。
- ・バレエを習っていて、今後も続けていきたいという希望がある。
- ・計算はケアレスミスがあるが、概ね理解できている。

●課題

- ・4年生から学校が楽しくないと言い出し、早退が増えた。
- ・年を重ねるごとに学習と向き合おうとしなくなっている。

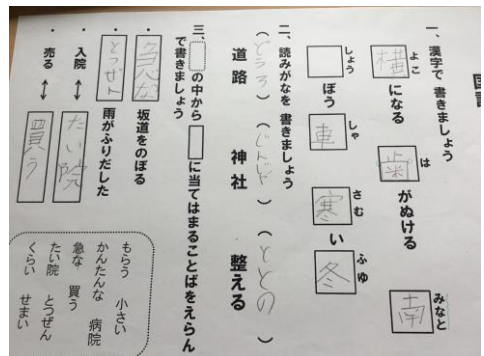


(本人からの聞き取りと願い)

- ・漢字が覚えられない。
- ・明日の漢字テストなら50点くらいは取れるけどすぐに忘れてしまう。
- ・板書すると疲れてしまう。

●願い

- ・漢字を書けるようになりたい。



(担任からの聞き取りと願い)

- ・友人関係は良好である。
- ・学習面以外は特に問題はない。
- ・真面目で素直である。
- ・取り出し指導をしているがどんな指導が効果的かわからなくて困っている。
- ・母親は熱心でよく連絡をしてくる。
- ・学習状況調査は10分もするとあきらめていた。

(相談室での様子から)

- 片仮名は読めていなかった。
- 漢字が入る文章もたどたどしい読み。
- 図形認識が苦手な様子あり。
- 会話の疎通が良く知っている知識も多かった。発達検査の結果より認知能力はもう少し高いような印象を受けた。

・活動の具体的内容と対象児の事後の変化

①音声支援の良さを実感⇒そして自分の道具へ

音声読書で語彙を増やす（使用したアプリ：kindle、青空文庫）



活動の具体的内容

理解力は十分あると感じたので、まずは好きな本を選んで聞く活動を取り入れた。本人の希望で「竹取物語」「美女と野獣」を選択したので、いつでも聞けるように使用方法を確認した。

音声教材や動画を使って教科の内容理解を深めるために

（使用したアプリ：イーリーダー、NHK for School）

（使用した教材：学研のやさしくまるごとシリーズ）



活動の具体的内容

イーリーダー：教科書の内容を音声で確認することで、内容の理解を進める。

NHK for School：理科や社会の予習復習
まるごとやさしく小学理科：理科をもっと得意にしたいという本人の希望から、休みがちだった4年生の内容から遡って学習を進めた。

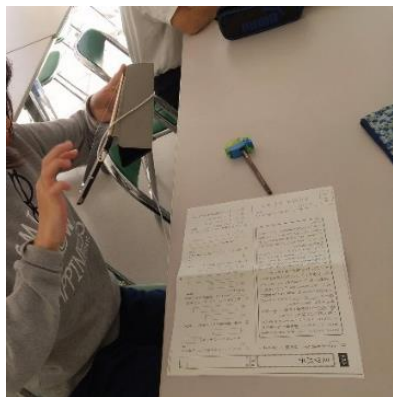
テキストの音声読み上げ（使用したアプリ：office lens タッチ&リード）



活動の具体的内容

対象児の読みの困難さから、紙媒体からのOCRでテキストに変換して、音声読み上げをするスキルは必須であると考えて。そのため今後テストを受けるときに使えるスキルとして練習をした。

⇒対象児童の変化



音声を利用した学習が自分に合うことを知ることができたので必要に応じてiPadを利用するようになった。

テキストの音声読み上げはスキルを身に付けたことを確認してから、学校での取り出し支援の中でiPadを利用してテストを実施してもらった。学校側は当初支援者が使い方を知らないからと不安だったが、最初は本人のスキルを見てもらえばと交渉したところ実施してくれた。その後は本人も、これがあると点数がとれることを実感したので利用を希望している。

②選ぶことから読み書きへつなげる取り組み

選択式で読める漢字を増やす（使用したアプリ：漢字検定 よみがな特訓）



活動の具体的内容

漢字の書きについては、他機関（療育センターとリタリコ）で取り組むとのことなので、こちらでは読みに重点を置いて指導することにした。いくつか試したところ本人が一番気に入ったこのアプリを使用した。

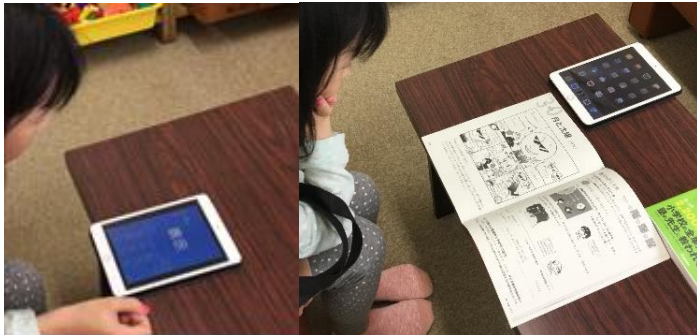
確認の方法を身に付ける（使用したアプリ：例解国語辞典、筆順辞典）



活動の具体的内容

確認の方法として、知らない熟語や言葉を調べる。知らない漢字を調べて大きく表示して正しく書くことができるようにした。

⇒対象児童の変化



読める漢字が増えたので、たどたどしい読みでも短い文章については理解度が上がった。そのため、算数や理科、社会のテストではあきらめることなく、最後まで取り組むようになっている。

③対象児を理解して、生活支援する取り組み

遠隔でサポート（使用したアプリ：by talk for school）



活動の具体的内容

本人と会えるのは月に1～2回で1回50分なので、基本は遠隔でやりとりをした。最近はお互いの趣味やテレビの話題で盛り上がっている。学校の学年便りなどを写真で送ってくれるので、授業の進捗についても確認できた。

学校と連携（使用したアプリ：メッセージャー）



活動の具体的内容

学校の様子や、本人の希望などを担任へ知らせるために使用した。取り出しでの支援状況や指導目的を伝えてもらい、本人の特性に応じた対応となるように情報交換に利用した。

予定の確認や入力（使用したアプリ：Siri）



活動の具体的内容

対象児の姉から、「今日のおみくじをお願いします？」など入れて遊んでいることを知り、面白い Siri メッセージを楽しんだ。その後、予定の入れ方とリマインダーの使い方を練習した。

⇒対象児童の変化



以前は相談の予定を忘れてしまうことがあったが、予定を忘れた場合は事前に連絡を入れてくれるようになった。Siri を使いこなせるようになってからは、スケジュール管理能力が徐々に身についている。

④中学へ向けての準備としての取り組み



活動の具体的内容

ノートをとることはできるが、書いたものを読み返すことが難しいこと。又、書くことに集中すると理解が乏しくなることがわかってきている。今後は教室内でのノートテイキングや自主学习のために使い方を練習していく予定である。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

①自分に対する評価が高くなり、学習に対して前向きに取り組むようになった。

以前は「無理」「どうせできないから」といった言葉が多く聞かれたが、秋以降は前向きな言葉が増えている。また、書くことに集中するよりも聞いているだけで理解できる教科があることに気づき、自分のスタイルで学習するようになっている。

②代替手段としての ICT 利用を身に付けたことで、できることが増えた。

読み上げ機能を使うことで確実にテストの点数が向上している。本人は読めればわかることを実感したので配慮を求めることができるようになった。

③周囲の理解が深まり、情緒面や体調が安定した。

保護者や担任が本人の困難さに理解を示すようになり、自分のできに特化して学習するようになったので負担感が減り欠席数は発熱や定期診察以外では、ほぼ無くなった。

・エビデンス(具体的数値など)

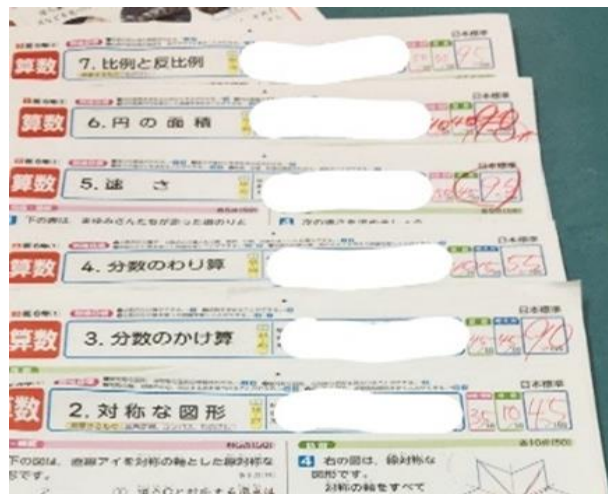
社会・理科 (iPad 利用なし)



介入が始まった 4 月は 6 割程度の正答率だったが、9 月以降は安定して 8 割前後の成績となっている。

算数 (iPad 利用なし)

計算はできていたが、文章問題で間違えることが多かった。現在は語彙が増えたこともあり、式を正しく立てることができている。

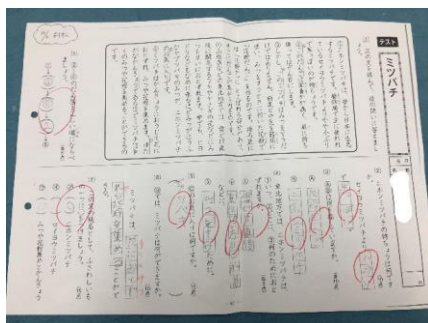


国語

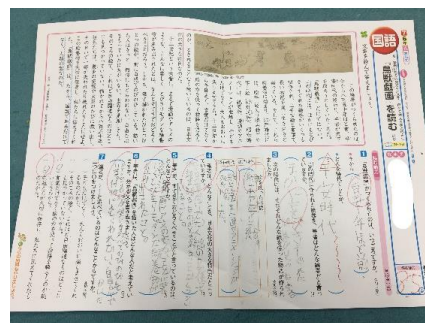
国語はどうしても点数が伸びなかった。本人は「読めてないけど、おそらくこんな答えだと思うと予想して答えている」と言っていた。そこで iPad 利用をしておのテストを実施してもらったところ 8 割以上の正答率となった。学校も合理的配慮であることが理解できたので、今後の国語テストに関しては利用を許可してもらっている。



iPad 利用前

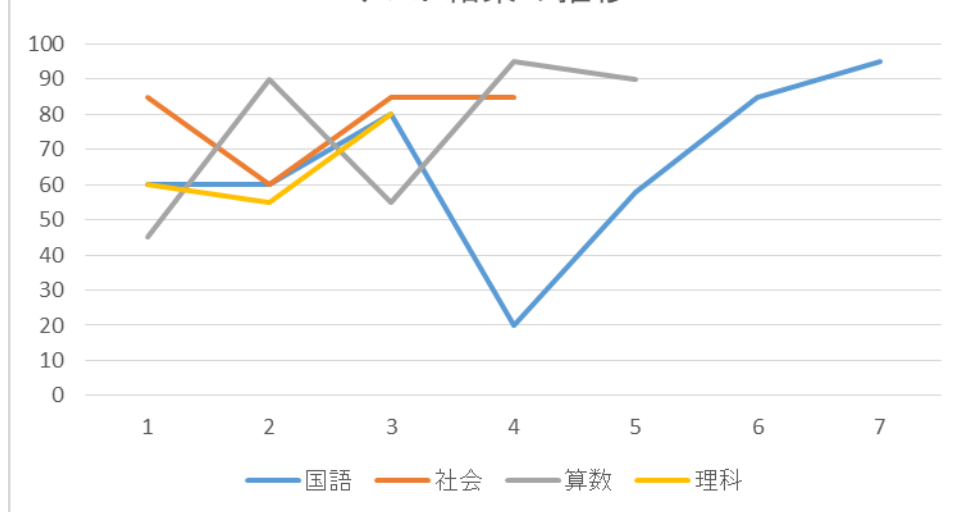


⇒プレテスト



⇒iPad 利用

テスト結果の推移



<テスト結果の分析>

読める漢字が増えたことで、全ての教科において知識の定着は向上している。国語のテスト第6回と第7回については iPad 利用の結果である。このことから対象児童に iPad を利用した読み上げ機能は合理的な配慮であると考えられる。

中学校へ向けて

・ iPad を購入

先日の成果報告会に両親が参加してくださり、改めて本人にとっての支援について理解を深めていただいた。その結果今後のことも考えて iPad を購入して母親も使い方を学んでくれている。

・ 道具としてタイピングも練習、外部機関の活用も

今まで利用していた療育に関しては、今後継続しないという見通しを持っていたので、民間機関であるハイブリッドキッズアカデミーを紹介した。今後はハイブリッドキッズアカデミーとも連携しながら本人にとって一番良い方法を検討していきたい。

・ 学校への理解

小中連携が3月にあるので、その時に担任から引継ぎをしてもらう。また、事前に中学校のコーディネーターへ連絡をして今までの介入の経緯を伝えてある。中学校の学校長もある程度理解を示しているとのことである。

今後は、定期テストでの対応や教室持ち込みに関するルールや啓発など、いくつかハードルが残っているので来年度も引き続き支援したいと考えている。